

長 平 推 号 外  
令和5年11月9日

東京都立大泉桜高等学校 様

長崎市長 鈴木 史朗  
(公印省略)

平和基金へのご寄附について (お礼)

向寒の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたびは過分なるご芳志をいただき、誠にありがとうございます。謹んでお礼申し上げます。

お寄せいただきました寄附金は、平和基金として積み立て、本市が行う平和関連事業や平和及び原爆資料の収集・保存・展示等に活用させていただきたいと存じます。

1945年8月9日午前11時2分、長崎は一発の原子爆弾により破壊され、凄まじい熱線と爆風と放射線は、女性や子ども、お年寄りも無差別に7万4千人もの尊い命を奪い、7万5千人の負傷者を出しました。被爆から78年を迎えた現在もなお、放射線の影響による後障害に苦しむ被爆者がおられます。

被爆者をはじめとする長崎市民は、原爆による惨禍が二度と繰り返されることのないよう、「核兵器のない世界」の実現を訴え続けてきました。

しかし、世界に目を向けると、ウクライナ情勢が緊迫化し、「核兵器のない世界」への道は険しさを増すばかりか、核兵器使用のリスクが高まっています。

再び「核兵器のない世界」への潮流をつくり出すためには、国内外から核兵器廃絶の声を上げ、連携していく必要性がますます強くなっています。

長崎市は、核兵器廃絶と世界恒久平和に向けて皆様と共に歩み続けてまいります。

ここに略儀ながらお礼を申し上げますとともに、大泉桜高等学校の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

この用紙は折り鶴の再生紙を使用しています。